

第一章 北州市民の幸福度に関する調査

伊 藤 解 子

1. はじめに

(1) 調査研究の背景・目的

経済成長期から低成長成熟社会に入った1990年代以降、経済的、物質的豊かさが必ずしも人間の「幸福」にはつながらないという観点から、国内外で「幸福の経済学」に関する研究が活発になった。経済指標である国内総生産（GDP）の限界が指摘され、国民の幸福度や満足度を測る「幸福度指標」の必要性が認識されるようになり、国民総幸福量（GNH: Gross National Happiness）を政策目標に掲げたブータンをはじめ、フランス、イギリスにおいても本格的な幸福度指標の検討が行われている。

我が国でも、内閣府が「幸福度に関する研究会」を設置し、2011年12月に研究会報告として幸福度指標の試案が公表された¹⁾。また、東京都荒川区をはじめ²⁾、多くの自治体において幸福度に関する研究が様々なかたちで進められており、福岡県においても「幸福度に関する研究会」が立ち上げられ、2011年9月に公表された報告書では「県民幸福度日本一」の実現を目指して取り組む10の事項が提示された³⁾。

一方で、幸福度について客観的な定義ができるのか、幸福度を測ることはきわめて困難である、政策評価に用いることに合理的な根拠はない、というような慎重論もあって、現段階ではいずれの自治体も、試行錯誤を重ねている状況にある。

しかし、従来のような「世論調査」だけでなく、何らかの方法で人々の「幸福度」を把握したいという試みは、今後も様々な主体や方法によって続けられていくと考える。

幸福の実感は個々人によって異なりその理由も様々である。しかし、超高齢化、少子化、生活格差の拡大など、幸せに関わる現実が変化しつつある今、何が私たちの幸福感に関係しているのか、単なる「考え方、感じ方」ではなくできるだけ実証的にみていくことは、幸せを実現したいと人々が考える際に何かしらの役に立つかかもしれない。また、政策担当者にとっても、るべき政策の方向性を考える一助になるかもしれない。そのような観点から、北州市民の幸福感の特徴をとらえることが本調査研究の目的である。

経済学や心理学の分野では幸福に関する実証研究が1970年代から世界的に行われており、さらに近年の研究の拡がりとともに多くの実証結果が蓄積されている。様々な国において人々がどのくらい幸せなのか、世代ごとでどのように満足度が異なるのか、どのような環境や経験が人々の生活に関する評価と密接に関係するかなどについて既に明らかになっていることは多い。現在の幸福に関する研究は、それらの知見に基づいて、幸福度を定量化するための方法や評価指標に関するものが主流となっている。幸福度は主観、客観の両面でとらえる必要があるが、本調査研究は、まず主観的な幸福感の実態を把握することを重視し、基本的な属性や生活状況、生活意識の違いなどによる幸福度の差をみていくこととした。

(2) 研究方法

本研究では、人々の幸福度やその判断に影響すると思われる事項について、インターネットによるアンケート調査を実施した（表 1-1）。

調査項目について、幸福の源泉はきわめて多くの側面に関わり、そのすべてを検討することはできないが、ここでは、福岡県や国が行った調査や（表 1-2）各事例の指標体系（表 1-3）を参考に設定した。

調査対象は、北九州市の在住者だけでなく、比較のために首都圏在住者にも同様の調査を実施した。首都圏の調査対象者について、本研究では、地方圏と首都圏を比較的にとらえることができる人の意識を知ることを意図して、北九州市に居住経験がある人を選定した。

表 1-1 調査概要

調査対象	標本数	調査時期	調査方法
北九州市内居住者	400	2013年2月	インターネット調査 (㈱ミクシーリサーチ)
北九州市に居住歴のある首都圏居住者	500		

表 1-2 調査項目設定や比較のために利用した調査の概要

調査名	調査主体	標本数	調査時期	調査方法
県民意識調査	福岡県	1,624	2012年10・11月	郵送法
生活の質に関する調査	内閣府	10,469	2012年3月	インターネット調査※
国民生活選好度調査	内閣府	2,802	2012年3月	個別訪問留置法
国民生活に関する世論調査	内閣府	6,351	2012年6・7月	個別面接聴取法

※:生活の質に関する調査は、別に、訪問留置法によつても行われた。

表 1-3 国内外の幸福度指標体系の項目

	ブータン	フランス	イギリス	OECD	内閣府	荒川区	新潟市
上位項目	持続可能な社会 環境保護 伝統文化の振興 優れた統治力			物質的生活環境 生活の質 持続可能性	経済社会状況 心身の健康 関係性		
主観的幸福	心理的幸福		個人の幸福	生活の満足度	主観的幸福度		仕事、経済物
経済 (生活水準)	生活水準	物質的生活 水準	国の経済 状況	住居・収入	住環境	産業革新	
環境	環境の多様性	環境	自然環境	環境	自然との つながり	環境先進	
文化	文化の多様性					文化創造	
余暇・時間	時間の使い方と バランス			ワークライフ バランス	ライフスタイル		高齢者軸
健康	健康	健康	健康	健康	身体的健康 精神的健康	生涯健康	健康
仕事		仕事を含む人 間関係	仕事	雇用	仕事		仕事・経済軸
安全・安心		安全・安心	居住地域	安全	基本的ニーズ	安全安心	安全安心家族 軸
ガバナンス	良い統治	政治的発言力と 統治	国の統治に 関する状況	ガバナンス	制度		
教育	教育	教育	教育	教育と職業技術	教育	子育て・教育	子ども軸
コミュニティ・ 関係性	地域の活力	社会的つながり と関係	人間関係	共同体	個人・家族との つながり		連帯・信頼感

出典:参考資料4(公益財団法人荒川区自治総合研究所『荒川区民幸福度(GAH)に関する研究プロジェクト中間報告書』を参考に東北活性化研究センターが作成したもの)

(3) 回答者の属性

性別は「北九州市」、「首都圏」のいずれも男女同数、それぞれ 50% である。

年齢階層別では、「北九州市」は男女とも 40 歳代が最も多く、次いで、男性は 50 歳代、女性は 30 歳代が多い。「首都圏」は、男女とも 40 歳代、30 歳代の順に多い。20 歳代は「北九州市」、「首都圏」とともに少ない。

居住地について、「北九州市」の回答者の行政区別構成比は、実際の人口構成比と大きな乖離はないが、小倉北区が 3 ポイント高く、一方、若松区が 4 ポイント低い。「首都圏」では、東京都が約半分を占める。

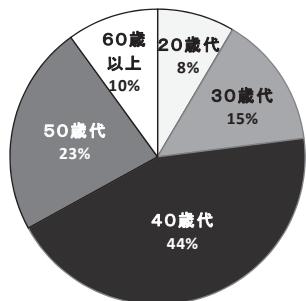


図 1-1 年齢階層別回答率
(北九州市・男)

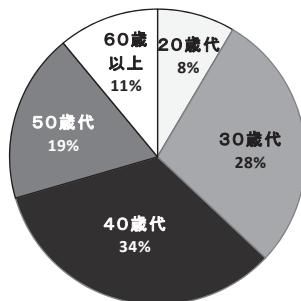


図 1-2 年齢階層別回答率
(北九州市・女)

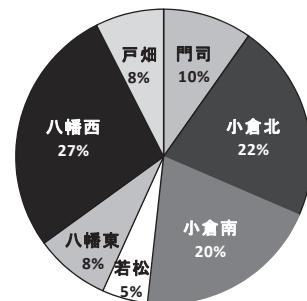


図 1-3 行政区別回答率
(北九州市)

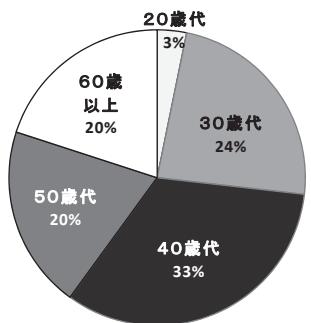


図 1-4 年齢階層別回答率
(首都圏・男)

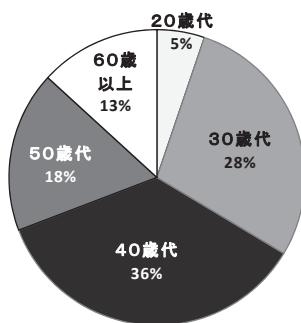


図 1-5 年齢階層別回答率
(首都圏・女)

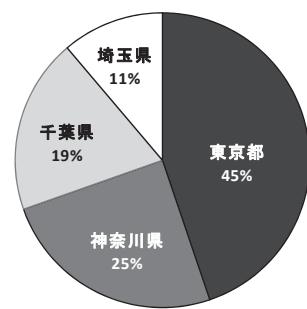


図 1-6 都県別回答率
(首都圏)

「首都圏」の調査対象者選定にあたって、地方圏と首都圏を比較的にとらえることができる人の意識を知ることを意図して北九州市における居住歴を要件としたが、居住歴別にみると 10 年未満が 7 割を占めており、北九州市出身者よりも、北九州市で一時期過ごしたという人の方が多い。

3 年未満が約 4 割を占め、その多くは転勤や長期出張などの体験者と思われる。

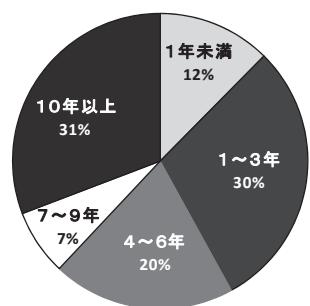


図 1-7 北九州市居住歴別回答率
(首都圏)

2. 調査結果の概要

調査にあたっては、まず「現在、どの程度幸せか」を 10 段階評価（「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点）でたずね、その採点結果を幸福度とし、基本的な属性や生活状況、生活意識の違いなどによる幸福度の平均値を求め、比較検討を行っている。

2-1 属性別・生活状況別にみた幸福度

(1) 基本属性別の幸福度

①全般的にみた幸福度

「北九州市」の平均値は 5.88 で「首都圏」の 6.36 を下回る。また、「福岡県（県民意識調査）」や「全国（生活の質に関する調査・国民生活選好度調査）」よりも低い数値となっている。点数別の回答率をみると、いずれの調査でも 5 点（どちらともいえない）と 7 点または 8 点を二つの山とする M 字型の分布となっているが、「北九州市」は他の調査結果に比べて 1~4 点が多く 10 点が少ない（図 2-1）。

②男女別の幸福度

「北九州市」は女性の方が男性よりも 8 点以上の回答率が高く、平均値でも女性をやや上回っている（図 2-2）。

「首都圏」もほぼ同様の傾向であるが、8 点以上の回答率の差は「北九州市」よりもさらに大きく、平均値でも女性の方が男性をかなり上回っている（図 2-3）。

③年齢別の幸福度

「北九州市」は、他の調査結果と比較して年齢別の幸福度の差が大きく。40 歳代までの若い世代や 70 歳以上の幸福度は最も低いが、50 歳代の幸福度は最も高い（図 2-4）。とりわけ 20~24 歳の幸福度が低く（図 2-5）、一方、55~59 歳の女性の幸福度が高い（図 2-6）。

「首都圏」では、他の調査結果と比較して 60 歳以上の幸福度が高い（図 2-4）。また、20~24 歳の幸福度は「北九州市」と対照的にかなり高く、就職事情の差が幸福感に大きく影響していると思われる。また、「首都圏」では各世代において女性の幸福度が高いが、特に 20~24 歳が高く（図 2-7）、首都圏に進学、就職した女性と「北九州市」の同世代の幸福感の差は大きい。

表 2-1 年齢別の回答率・幸福度

	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
20 歳代	8.5	8.5	8.5	4.2	3.2	5.2	5.44	5.24	5.65	6.14	5.38	6.62
30 歳代	21.5	14.5	28.5	26.0	23.6	28.4	5.48	5.45	5.49	6.20	6.10	6.28
40 歳代	38.8	44.0	33.5	34.4	33.2	35.6	5.74	5.67	5.82	6.40	5.90	6.85
50 歳代	20.8	23.0	18.5	18.8	20.0	17.6	6.43	6.20	6.73	6.12	5.90	6.36
60 歳以上	10.5	10.0	11.0	16.6	20.0	13.2	6.50	6.40	6.59	6.84	6.80	6.91

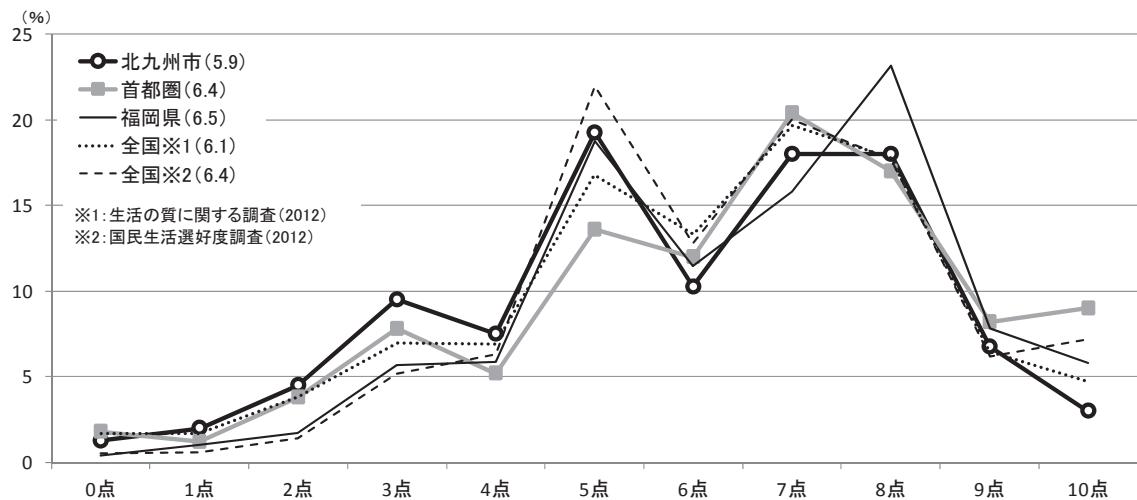


図 2-1 幸福感の点数別回答率

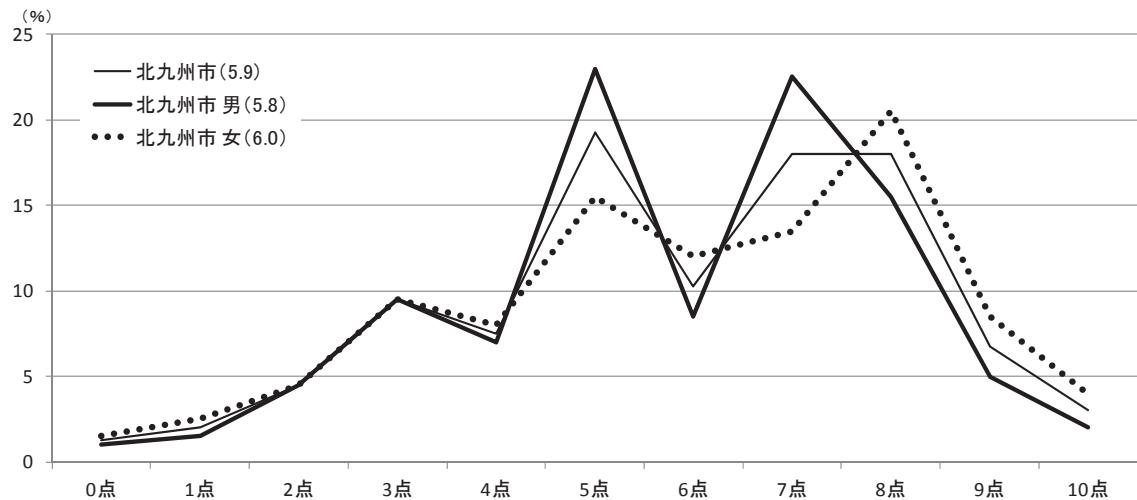


図 2-2 幸福感の点数別・男女別回答率(北九州市)

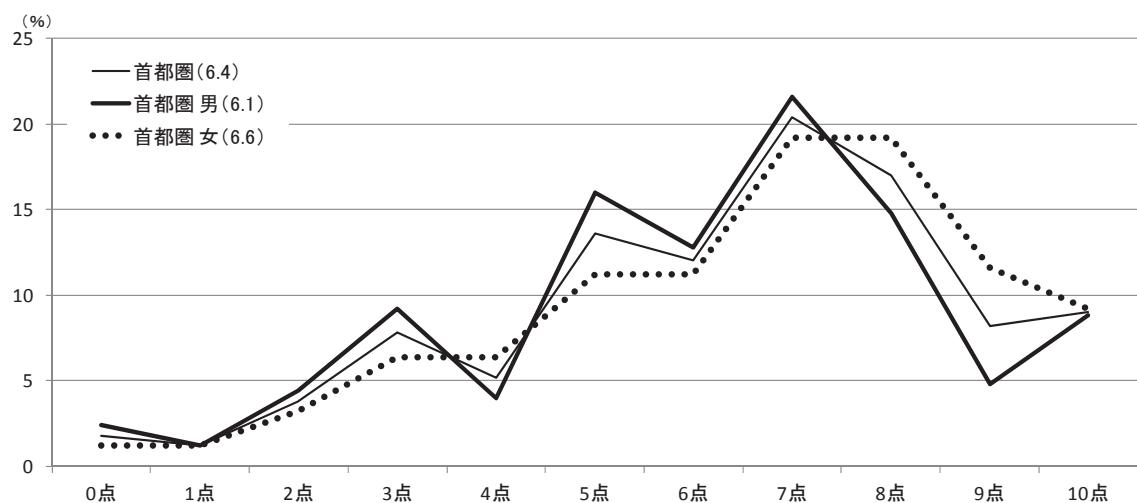


図 2-3 幸福感の点数別・男女別回答率(首都圏)

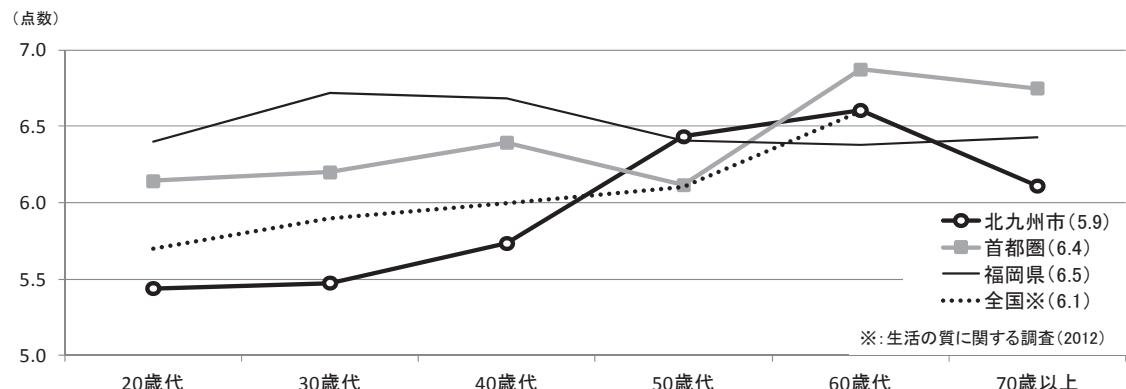


図 2-4 幸福感の年齢別平均点数

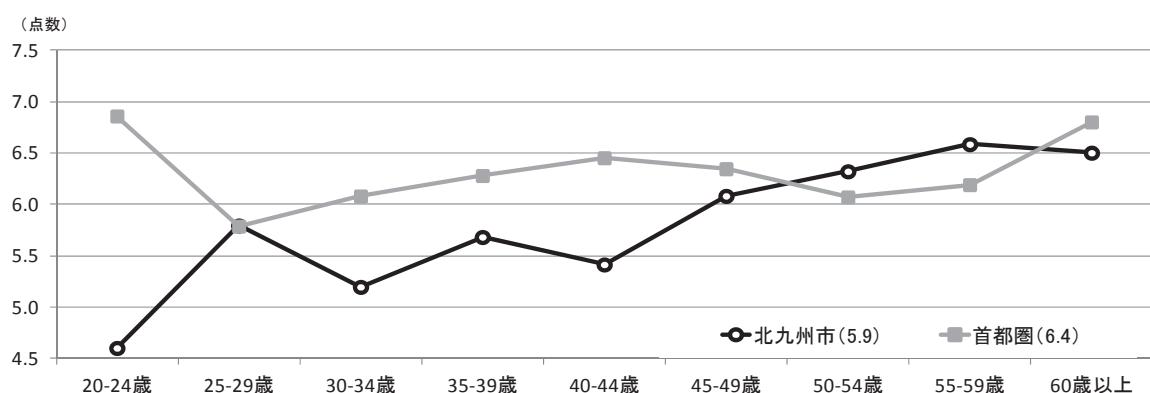


図 2-5 幸福感の年齢別平均点数(北九州市・首都圏)

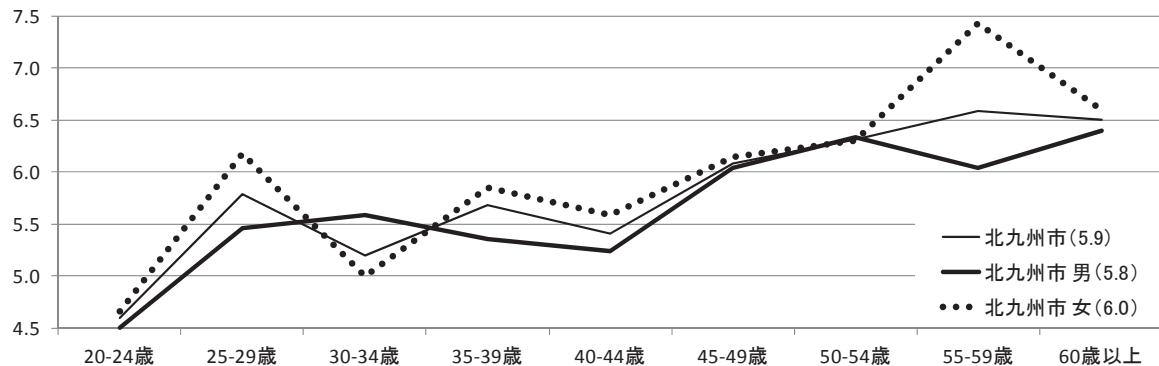


図 2-6 幸福感の年齢別・男女別平均点数(北九州市)

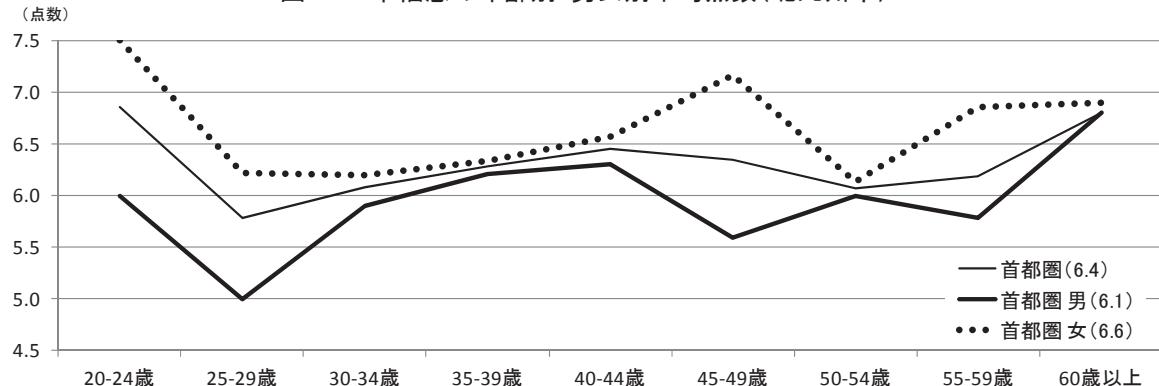


図 2-7 幸福感の年齢別・男女別平均点数(首都圏)

(2) 居住地・居住年数別にみた幸福度

①居住地別の幸福度

「北九州市」では、若松区の居住者の幸福度の平均値が最も高い。若松区はサンプル数の少なさを考慮する必要があるが、女性の約8割が8点以上である。ただし、男性の幸福度の平均値は他の区よりも低く、男女差が大きい。次いで、全市の平均より幸福度が高いのは、八幡東区、戸畠区、小倉北区、小倉南区である。そのうち、八幡東区、戸畠区では男性の方が、一方、小倉北区、小倉南区では女性の方が高い。

「首都圏」では、千葉県、埼玉県の方が東京都、神奈川県よりも幸福度が高い。神奈川県は、男性、女性とも幸福度が最も低いという結果となっている。また、「首都圏」では、先に見たように総じて女性の幸福度が高いが、埼玉県では男性の満足度がかなり高い。

表 2-2 居住行政区別の回答率・幸福度

北九州市	回答率(%)			幸福度平均点数		
	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97
門司区	9.8	12.0	7.5	5.36	5.54	5.07
小倉北区	21.8	22.5	21.0	5.97	5.71	6.24
小倉南区	20.3	19.0	21.5	6.00	5.53	6.42
若松区	5.0	4.5	5.5	6.45	5.11	7.55
八幡東区	8.3	9.5	7.0	6.15	6.37	5.86
八幡西区	27.5	25.5	29.5	5.65	5.96	5.39
戸畠区	7.5	7.0	8.0	6.13	6.29	6.00

表 2-3 居住都県別の回答率・幸福度

首都圏	回答率(%)			幸福度平均点数		
	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	6.36	6.11	6.60
東京都	44.8	45.2	44.4	6.39	6.03	6.76
神奈川県	24.8	26.0	23.6	6.02	5.80	6.25
千葉県	19.2	18.4	20.0	6.59	6.33	6.84
埼玉県	11.2	10.4	12.0	6.57	6.88	6.30

②居住年数別の幸福度

ここでは、現居住地（市町村）の居住年数別にみていく。

「北九州市」では、生まれたときからの居住者を合わせて居住歴20年以上が回答者の約2/3を占めるが、そのうち市外出身女性の幸福度が高く、他市町村と比較できる女性からみて、北九州市の生活しやすさが評価を得ていることがうかがわれる。サンプル数の少なさを考慮する必要があるが、住み始めて間もない居住歴2年未満の女性の幸福度が比較的高いのに対し、同じく居住歴2年未満の男性の満足度がかなり低い。

「首都圏」では、現居住地での居住歴10年未満が回答者の約2/3を占めるが、そのうち最も多い5年以上10年未満で男女とも幸福度は比較的低い。現居住への不満を意識する頃に幸福度が低下するが、定住地を決めて住み続ければ幸福度も高まっていくことがうかがわれる。

表 2-4 現居住地での居住年数別の回答率・幸福度

現居住地(市町村) での居住歴	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
生まれたときから	31.5	8.0	4.0	0.0	0.0	0.0	5.75	5.83	5.70	-	-	-
2年未満	6.0	7.5	3.5	4.2	3.2	5.2	5.42	4.88	6.50	7.05	7.47	6.71
2年以上5年未満	5.5	9.0	8.0	26.0	23.6	28.4	5.77	5.93	5.43	6.08	6.02	6.13
5年以上10年未満	8.5	13.5	12.0	34.4	33.2	35.6	6.15	6.67	5.56	5.90	5.71	6.07
10年以上20年未満	12.8	38.5	33.0	18.8	20.0	17.6	5.88	5.59	6.21	6.47	5.84	7.18
20年以上	35.8	23.5	39.5	16.6	20.0	13.2	6.03	5.81	6.29	6.64	6.44	6.87

(3) 家族の状況別にみた幸福度

①婚姻関係による幸福度

「北九州市」も「首都圏」も、既婚者に比べ未婚者の幸福度は低い。なかでも、「北九州市」の未婚男性の幸福度はかなり低く、既婚者との差が大きい。

最も幸福度が高いのは「首都圏」の既婚女性である。

表 2-5 婚姻関係別の回答率・幸福度

婚姻関係	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
未婚	28.8	26.0	31.5	24.2	28.0	20.4	4.91	4.48	5.27	5.45	5.43	5.47
配偶者あり	62.0	65.5	58.5	71.0	69.6	72.4	6.41	6.38	6.44	6.68	6.39	6.96
離婚	8.3	8.0	8.5	3.2	1.2	5.2	5.30	5.31	5.29	6.13	6.00	6.15
死別	1.0	0.5	1.5	1.6	1.2	2.0	5.50	5.00	5.67	6.38	6.33	6.40

②家族構成による幸福度

「北九州市」も「首都圏」も、家族構成は夫婦だけの場合で幸福度は最も高い。子どもがいる場合でも、三世代同居より夫婦と子どもだけの核家族の方が幸福度は高い。

一方、単身者の幸福度は低く、「北九州市」では男女とも幸福度の平均値が5点を下回る。

表 2-6 家族構成別の回答率・幸福度

家族構成	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
単身	15.3	17.0	13.5	18.8	22.4	15.2	4.69	4.56	4.85	5.54	5.41	5.74
夫婦だけ	20.5	21.0	20.0	22.0	20.8	23.2	6.59	6.60	6.58	7.05	6.69	7.36
夫婦と子ども	46.5	48.0	45.0	48.8	49.2	48.4	6.03	6.00	6.07	6.44	6.23	6.66
夫婦と子どもと親	6.0	7.5	4.5	5.0	5.2	4.8	5.67	5.60	5.78	5.88	5.46	6.33
夫婦と子どもと親と夫婦の兄弟姉妹	1.5	0.5	2.5	0.6	0.4	0.8	6.17	8.00	5.80	6.33	10.00	4.50
その他	10.3	6.0	14.5	4.8	2.0	7.6	5.63	4.92	5.93	6.00	6.00	6.00

③子どもの数による幸福度

「北九州市」も「首都圏」も、子どもがいる人の方がいない人よりも幸福度は高い。ただし、子どもが3人以上になると女性の幸福度は大きく低下し、4人以上になると、子どもがいない人よりも低くなる。

また、子どもがいない場合、男性の幸福度は女性に比べてかなり低い。

表 2-7 子どもの数別の回答率・幸福度

子どもの数	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
1人	17.8	17.0	18.5	21.6	20.8	22.4	6.41	6.59	6.24	6.21	5.96	6.45
2人	30.8	34.5	27.0	32.8	30.0	35.6	6.46	6.17	6.81	6.82	6.73	6.89
3人	8.5	8.5	8.5	8.4	11.6	5.2	5.68	5.94	5.41	6.10	6.21	5.85
4人以上	2.0	2.5	1.5	2.6	4.0	1.2	5.88	6.80	4.33	5.92	6.20	5.00
いない	41.0	37.5	44.5	34.6	33.6	35.6	5.26	4.99	5.49	6.10	5.61	6.57

④要介護者の有無による幸福度

「北九州市」では、要介護者と同居する人の幸福度は、要介護者がいない人や別居している人に比べて男女とも低く、女性の方が男性よりも低い。

また、「北九州市」も「首都圏」も、要介護者がいない人よりも別居している人の方が幸福度が高く、施設入所などによる負担軽減が心理的なプラス効果として大きいのではないかと思われる。

表 2-8 要介護者の有無別の回答率・幸福度

要介護者の有無	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
いない	78.8	78.0	79.5	74.4	71.2	77.6	5.87	5.74	5.99	6.35	6.11	6.57
同居の家族・親族にいる	7.3	7.5	7.0	11.2	14.4	8.0	5.31	5.40	5.21	6.29	6.03	6.75
別居の家族・親族にいる	14.0	14.5	13.5	14.4	14.4	14.4	6.23	6.28	6.19	6.44	6.22	6.67

(4) 仕事や暮らしの状況別にみた幸福度

①住宅の種類による幸福度

「北九州市」も「首都圏」も、「持家（一戸建て）」の幸福度が高く、一方、「公営借家」は低い。ただし「北九州市」では、「公営借家」や「給与住宅」の場合でも、女性の幸福度はかなり高く、男性との差が大きい。

また、「首都圏」では、「持家（一戸建て）」と「持家（集合住宅）」の差が小さく、男性では「持家（集合住宅）」の方が「持家（一戸建て）」よりも幸福度が高い。

表 2-9 住宅の種類別の回答率・幸福度

住宅の種類	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
持家(一戸建て)	46.0	45.0	47.0	34.2	31.6	36.8	6.00	5.96	6.04	6.65	6.38	6.89
持家(集合住宅)	20.3	20.5	20.0	32.6	33.2	32.0	5.85	5.80	5.90	6.53	6.48	6.58
民間の借家	22.3	20.0	24.5	22.8	24.4	21.2	5.75	5.73	5.78	5.93	5.41	6.53
給与住宅	4.3	6.0	2.5	4.0	4.8	3.2	6.06	5.67	7.00	6.15	6.00	6.38
公営の借家	5.0	6.0	4.0	4.4	4.8	4.0	5.45	4.83	6.38	5.59	5.50	5.70
その他	2.3	2.5	2.0	2.0	1.2	2.8	5.50	6.00	5.00	5.40	6.00	5.14

②職業による幸福度

「北九州市」では、「主婦・主夫」、「管理職」、「専門的・技術的職業」の幸福度が比較的高い。そのうち「主婦・主夫」では、無職の方がパートタイマーよりやや幸福度が高い。また、「管理職」の幸福度は男女の差が大きく、男性では「首都圏」を上回るが、女性では平均値よりも低く、また「首都圏」よりも低い。それに対して「専門的・技術的職業」の幸福度は女性の方が高く、また、男女とも「首都圏」を上回る。

一方、「販売職」や「現業職」の幸福度は低く、なかでも販売職の男性はかなり低い。また、「無職（退職者を含む）」の幸福度も「首都圏」よりも低く、無職の女性は特に低い。

また、サンプル数はわずかだが、男性主夫の幸福度が「北九州市」も「首都圏」も、特に高い。

表 2-10 職業別の回答率・幸福度

職業	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
事務職	21.3	20.5	22.0	25.4	27.2	23.6	5.65	5.95	5.36	6.27	6.22	6.32
販売職	4.3	5.5	3.0	3.0	2.8	3.2	5.00	4.64	5.67	5.27	4.29	6.13
管理職	8.8	15.5	2.0	14.4	24.8	4.0	6.29	6.42	5.25	6.29	6.35	5.90
専門的・技術的職業	17.5	24.0	11.0	14.0	17.2	10.8	6.19	5.98	6.64	6.13	5.84	6.59
サービス職	6.3	8.5	4.0	5.4	6.4	4.4	5.76	5.41	6.50	6.00	6.13	5.82
現業職	3.5	6.5	0.5	1.2	2.4	0.0	5.00	5.00	5.00	6.00	6.00	-
主婦・主夫(パートタイマー)	8.3	1.0	15.5	5.0	0.4	9.6	6.45	5.50	6.52	6.20	7.00	6.17
主婦・主夫(無職)	15.3	1.5	29.0	19.4	1.2	37.6	6.59	7.67	6.53	7.21	7.33	7.20
学生	2.5	3.0	2.0	0.2	0.4	0.0	5.80	5.33	6.50	7.00	7.00	-
無職	9.3	10.0	8.5	9.4	14.0	4.8	5.16	5.95	4.24	5.98	6.03	5.83
その他	3.0	3.5	2.5	2.4	2.8	2.0	4.08	4.14	4.00	5.92	5.57	6.40

③収入による幸福度

a) 自身の収入

収入が高いほど幸福度も高まる傾向がみられるが、「北九州市」の方が「首都圏」よりも、収入の差による幸福度の差が大きい。「北九州市」では、女性では「100～200万円未満」、男性では「100～400万円未満」の幸福度がかなり低いが、「600～800万円未満」より上の階層では、「首都圏」と同じ収入階層よりも幸福度は高い。

「首都圏」では、800万円未満では収入階層によって幸福感の差はあまりなく、女性では400万円未満でも幸福感はかなり高い。一方、女性で「400～600万円未満」より上の階層の幸福度は「北九州市」よりも低く、首都圏で女性がまとまった収入を得るために働くことは、幸福の増進につながっていない。

表 2-11 自身の収入階層別の回答率・幸福度

年間収入 (ボーナスを含む)	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
全くない(0円)	16.3	6.5	26.0	12.8	3.6	22.0	5.91	5.92	5.90	6.59	5.11	6.84
1円以上 100万円未満	16.5	7.0	26.0	10.0	4.0	16.0	6.18	5.79	6.29	6.68	5.80	6.90
100～200万円未満	11.8	7.5	16.0	9.4	6.0	12.8	4.72	4.60	4.78	6.23	5.20	6.72
200～400万円未満	20.0	21.5	18.5	15.8	16.0	15.6	5.46	4.88	6.14	6.25	6.00	6.51
400～600万円未満	15.0	24.5	5.5	16.6	22.8	10.4	6.05	6.04	6.09	6.20	6.26	6.08
600～800万円未満	8.5	13.5	3.5	15.4	21.6	9.2	6.00	5.89	6.43	5.84	5.91	5.70
800～1,000万円未満	4.8	7.5	2.0	7.6	10.8	4.4	6.84	6.73	7.25	6.37	6.56	5.91
1,000～1,200万円未満	2.5	3.5	1.5	6.0	8.0	4.0	6.60	6.00	8.00	6.63	6.40	7.10
1,200～1,400万円未満	3.0	5.5	0.5	2.2	2.8	1.6	7.25	7.18	8.00	6.64	6.57	6.75
1,400万円以上	1.8	3.0	0.5	4.2	4.4	4.0	7.29	7.50	6.00	7.43	7.18	7.70

b) 世帯の収入

自身の収入よりも世帯の収入の方が幸福度への影響が大きい。また、自身の収入と同様に、「北九州市」の方が「首都圏」よりも収入の差による幸福度の差が大きい。特に「北九州市」の女性では、世帯収入による影響が大きく、「800～1,000万円未満」より上の階層になると、

幸福度は大きく高まり「首都圏」を上回る。一方、「首都圏」の女性は、世帯収入による幸福度の差はあまり大きくない。

男性では、『400～1,000 万円未満』の階層の幸福度は「北九州市」も「首都圏」も同程度であり、相応の世帯収入があれば、幸福度の地域差は小さいと考えられる。ただし、「北九州市」の男性では、「1,200～1,400 万円未満」より上の階層になると幸福度は大きく高まり、世帯収入の上昇による幸福増進効果は「首都圏」よりも大きい。

表 2-12 世帯の収入階層別の回答率・幸福度

年間収入 (ボーナスを含む)	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
全くない(0円)	3.5	2.5	4.5	1.8	2.4	1.2	4.36	5.40	3.78	4.89	5.00	4.67
1円以上 100 万円未満	4.0	3.5	4.5	2.2	2.8	1.6	5.69	6.00	5.44	4.45	3.57	6.00
100～200 万円未満	7.8	5.5	10.0	4.4	3.2	5.6	4.03	4.36	3.85	6.55	6.13	6.79
200～400 万円未満	20.5	21.0	20.0	12.8	11.6	14.0	5.41	4.90	5.95	5.97	5.93	6.00
400～600 万円未満	25.3	24.0	26.5	20.0	22.0	18.0	6.33	6.21	6.43	6.42	6.38	6.47
600～800 万円未満	16.0	17.5	14.5	22.0	22.4	21.6	5.77	5.86	5.66	6.33	5.68	7.00
800～1,000 万円未満	8.8	10.5	7.0	13.8	15.2	12.4	6.51	6.00	7.29	6.29	6.34	6.23
1,000～1,200 万円未満	6.8	5.0	8.5	8.4	7.6	9.2	6.37	5.30	7.00	7.00	6.89	7.09
1,200～1,400 万円未満	3.8	5.0	2.5	5.0	3.6	6.4	7.13	7.00	7.40	6.56	6.44	6.63
1,400 万円以上	3.8	5.5	2.0	9.6	9.2	10.0	7.73	7.64	8.00	6.85	6.65	7.04

④暮らし向きの見通しと幸福度

今後の暮らしや家計の状況がこれから先どうなっていくと思うかという問い合わせに対し、「北九州市」、「首都圏」とともに、今と「おなじようなもの」と考える人が最も多く、次いで、「悪くなっていく」と考える人が多い。「北九州市」では「首都圏」に比べ、「悪くなっていく」と「わからない」の割合が大きい。

「良くなっていく」という人の幸福度は高く、「悪くなっていく」、「わからない」という人の幸福度は低い。現在幸福な人は明るい見通しを持ちやすく、また、楽観的な人は幸福を感じやすいのではないか。そのような相互作用もあって、幸福度の高低と見通しの良し悪しには強い相関性があらわれていると思われる。

また、「同じようなもの」という人の幸福度は「北九州市」も「首都圏」も同程度であり、収入格差等があっても暮らし向きが安定していれば、幸福度の地域差は小さいと考えられる。

表 2-13 むらし向きの見通し別の回答率・幸福度

	回答率(%)						幸福度平均点数					
	北九州市			首都圏			北九州市			首都圏		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
全体	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	5.88	5.80	5.97	6.36	6.11	6.60
良くなっていく	8.8	9.5	8.0	13.2	11.2	15.2	7.06	6.79	7.38	7.30	7.36	7.26
同じようなもの	48.3	50.5	46.0	54.4	55.2	53.6	6.44	6.31	6.58	6.51	6.30	6.72
悪くなっていく	26.0	26.0	26.0	23.6	25.2	22.0	5.06	4.81	5.31	5.43	5.03	5.89
わからない	17.0	14.0	20.0	8.8	8.4	9.2	4.96	5.11	4.85	6.45	6.43	6.48

2-2 幸福度判断に関わる意識と幸福度

(1) 幸福度を判断する際に重視した事項と幸福度

「北九州市」、「首都圏」、また「全国（国民生活選好度調査）」でも、「家計の状況」、「家族関係」、「健康状況」「精神的なゆとり」が上位を占めているが、「北九州市」では「家計の状況」、「首都圏」では「精神的なゆとり」が最も多い。

性別では、女性の方が男性よりも重視する事項が多く、なかでも、「友人関係」や「自由な時間」、「充実した余暇」、「精神的なゆとり」は、女性の回答率が男性をかなり上回る。

年齢別にみていくと、まず、年齢が高いほど「健康状況」を重視する傾向は「北九州市」でも「首都圏」でも明らかである。「北九州市」における世代間比較では、50歳代女性と20歳代男性で「家計の状況」、50歳代男女で「家族関係」、50歳代男性で「仕事の充実度」、60歳以上の女性で「趣味、社会貢献などの生きがい」が、他の世代に比べて高い回答率となっている。20歳代についてはサンプル数が少ないことを考慮する必要があるが、20歳代男性で、同世代の女性や他の世代、また「首都圏」の同世代の男性と比較して、「精神的なゆとり」や「自由な時間」の回答率が高いのが目立つ。

幸福度を判断する項目と幸福度の関係をみていくと、「北九州市」も「首都圏」も、「友人関係」や「家族関係」を重視する人の幸福度が高い。一方、「就業状況」重視する人の幸福度は最も低く、就業不安が「就業状況」の重視につながっていると思われる。

また、「北九州市」で幸福度が高いのは、サンプル数は少ないが、「職場の人間関係」や「充実した余暇」を重視する20歳代女性、「地域コミュニティとの関係」を重視する40歳代男性や50歳代以上の女性、「友人関係」を重視する60歳以上の女性などである。

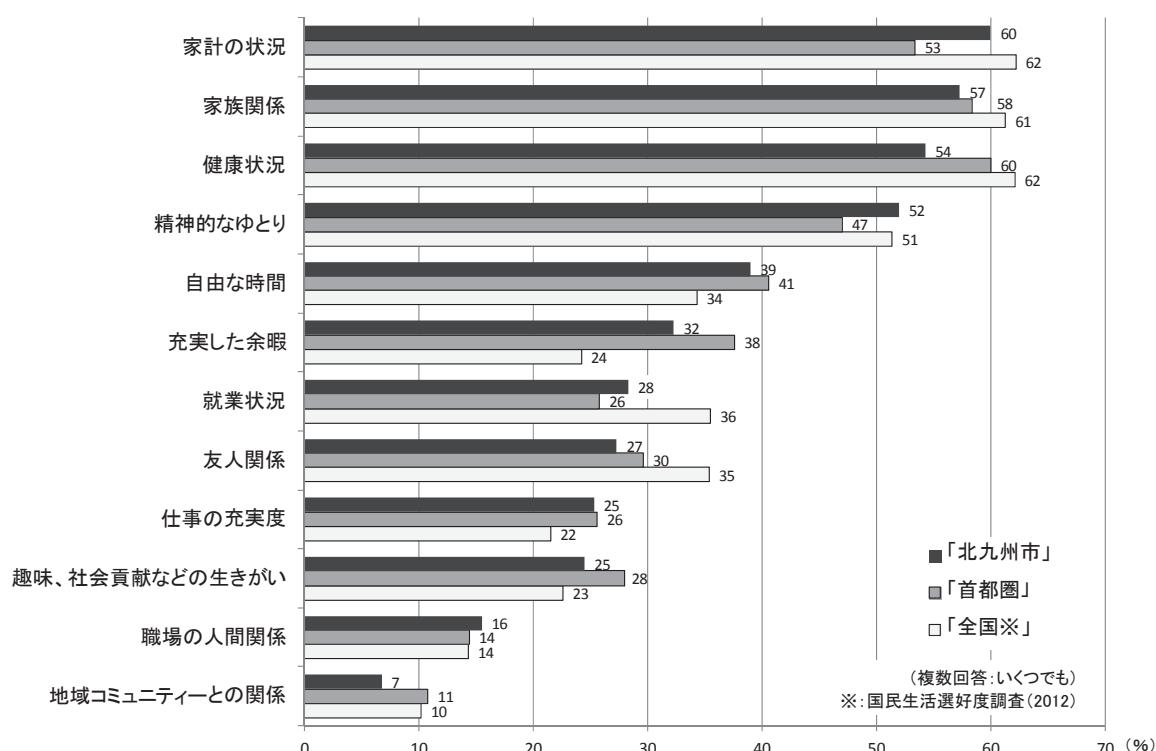


図 2-8 幸福度を判断する際に重視した事項別の回答率

(2) 幸福感を高める手立てと幸福度

幸福感を高めるために有効な手立ては何かという問い合わせに対して、いずれの調査でも「家族との助け合い」と「自分自身の努力」がほぼ並んで最も多い。「全国（国民生活選好度調査）」に比較して「北九州市」や「首都圏」では「友人や仲間との助け合い」や「国や地方の政府からの支援」の回答率が低く、今回の調査対象者の自助意識は比較的高いと考えられる。

「北九州市」では、男性に「自分自身の努力」、女性に「家族との助け合い」が多く、また、女性に「友人や仲間との助け合い」が比較的多い。男性は自助意識、女性は共助意識が強いという傾向がみられる。一方、「首都圏」では、男女とも「家族との助け合い」が最も多いが、次いで「自分自身の努力」は女性の方が男性よりもかなり多く、「北九州市」と逆に、女性の自助意識がかなり高いことがうかがわれる。

「家族との助け合い」は年齢が高いほど増える傾向にあるが、「北九州市」では、40歳代の女性の回答率が最も高い。また、「自分自身の努力」は、20歳代男性と60歳以上の男性の回答率が最も高い。

幸福度との関係をみていくと、「北九州市」も「首都圏」も、「家族との助け合い」を有効と考える人の幸福度が最も高く、一方、「国や地方の政府からの支援」や「社会の助け合い」を有効と考える人の幸福度は最も低い。公助や共助を求める人とそうでない人では、幸福度に明らかな差がみられる。

「北九州市」で幸福度が高いのは、「家族との助け合い」を有効と考える50歳代女性や、「友人や仲間との助け合い」を有効と考える60歳以上などである。

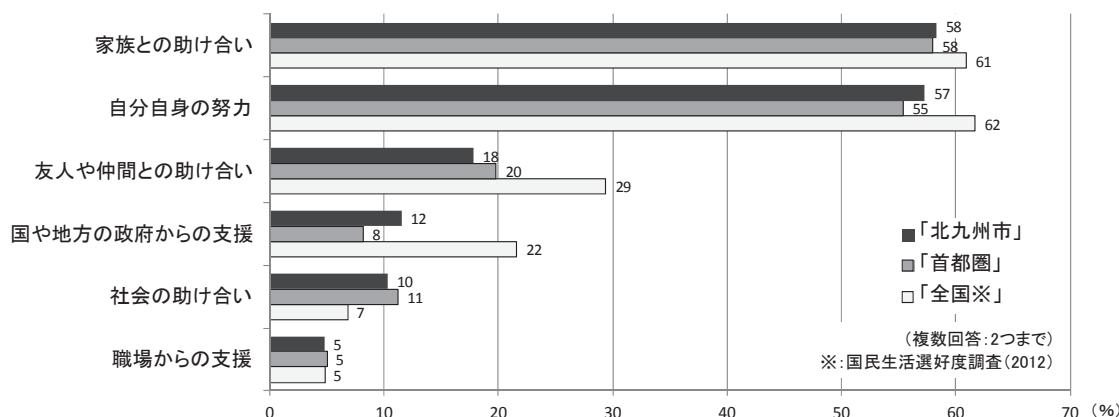


図2-9 幸福度を高める手立て別の回答率

(3) 社会貢献意識と幸福度

社会のために役立ちたいと「思っている」という回答率は、「北九州市」の男性では20歳代を除く各年齢層で「首都圏」の男性を上回る。一方、女性では、全年齢層で「首都圏」の女性を下回り、男性に比べて女性の消極性が目立つ結果となっている。

社会貢献したいと「思っている」人の幸福度は「あまり考えていない」という人より明らかに高く、年齢が高いほど幸福度も高くなっている。なかでも「北九州市」の60歳以上の女性の幸福度は特に高い。

表 2-15 幸福度を高める手立て・社会貢献意識別の回答率・幸福度

回答率 (%)		サンプル数	合計・平均	自身の幸福感を高めるために有効な手立ては何か（2つまで選択）						社会の一員として何か社会のために役立ちたいと思っているか			
				自分自身の努力	家族との助け合い	友人や仲間との助け合い	社会の助け合い	職場からの支援	国から地方の支援政府	思っている	あまり考えてい	わからない	
回答率 (%)	北九州市	400	100	57.3	58.3	17.8	10.3	4.8	11.5	40.5	48.5	11.0	
		全世代	200	100	63.0	55.0	13.0	11.5	5.0	9.0	45.5	46.0	8.5
		20歳代	17	100	82.4	35.3	35.3	5.9	0.0	11.8	47.1	41.2	11.8
		30歳代	29	100	58.6	41.4	13.8	13.8	3.4	13.8	17.2	65.5	17.2
		40歳代	88	100	58.0	54.5	11.4	11.4	8.0	6.8	48.9	42.0	9.1
		50歳代	46	100	63.0	67.4	8.7	13.0	4.3	8.7	54.3	41.3	4.3
		60歳以上	20	100	75.0	65.0	10.0	10.0	0.0	10.0	50.0	50.0	0.0
		全世代	200	100	51.5	61.5	22.5	9.0	4.5	14.0	35.5	51.0	13.5
		20歳代	17	100	47.1	47.1	17.6	5.9	11.8	17.6	35.3	41.2	23.5
		30歳代	57	100	63.2	45.6	22.8	12.3	7.0	12.3	31.6	56.1	12.3
		40歳代	67	100	44.8	73.1	25.4	9.0	3.0	10.4	37.3	50.7	11.9
		50歳代	37	100	54.1	67.6	24.3	10.8	0.0	10.8	32.4	51.4	16.2
		60歳以上	22	100	40.9	68.2	13.6	0.0	4.5	31.8	45.5	45.5	9.1
幸福度平均点 (10点満点)	首都圏	500	100	55.4	58.0	19.8	11.2	5.0	8.2	44.4	44.2	11.4	
		全世代	250	100	48.8	52.0	21.6	13.6	6.0	10.8	42.4	48.4	9.2
		20歳代	8	100	50.0	25.0	37.5	12.5	0.0	12.5	25.0	37.5	37.5
		30歳代	59	100	42.4	42.4	30.5	13.6	6.8	11.9	52.5	37.3	10.2
		40歳代	83	100	50.6	48.2	20.5	12.0	7.2	12.0	33.7	53.0	13.3
		50歳代	50	100	40.0	54.0	26.0	16.0	10.0	10.0	48.0	50.0	2.0
		60歳以上	50	100	62.0	72.0	6.0	14.0	0.0	8.0	42.0	54.0	4.0
		全世代	250	100	62.0	64.0	18.0	8.8	4.0	5.6	46.4	40.0	13.6
		20歳代	13	100	61.5	53.8	23.1	7.7	0.0	7.7	46.2	46.2	7.7
		30歳代	71	100	64.8	56.3	15.5	11.3	8.5	7.0	39.4	45.1	15.5
		40歳代	89	100	58.4	64.0	19.1	7.9	3.4	6.7	48.3	38.2	13.5
		50歳代	44	100	59.1	72.7	20.5	9.1	2.3	0.0	43.2	38.6	18.2
		60歳以上	33	100	69.7	72.7	15.2	6.1	0.0	6.1	60.6	33.3	6.1

(4) 生活充実感と幸福度

日頃の生活の中で、どの程度充実感を感じているかという問い合わせに対して、「北九州市」では、「十分感じている」及び「ある程度感じている」という回答率が「首都圏」や「全国（国民生活に関する世論調査）」を下回る。なかでも、20歳代と30歳代の男性や30歳代と40歳代の女性は「首都圏」との差が大きい。ただし、50歳代の男性では「北九州市」が「首都圏」を上回っている。

また、充実感を感じている人の幸福度をみると、「北九州市」は男女とも「首都圏」より高く、なかでも50歳以上の女性の幸福度が高い。

「北九州市」も「首都圏」も、「十分感じている」と「ほとんど（全く）感じていない」の幸福度の差は大きく、生活の充実感は幸福度を大きく左右していることがわかる。

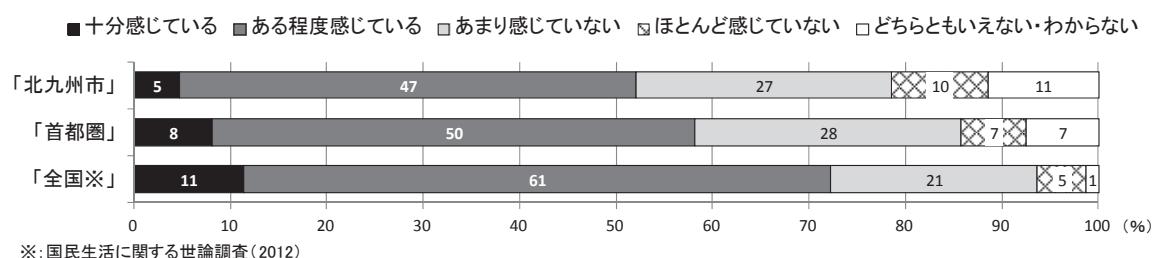


図2-10 日頃の生活における充実感の程度別の回答率

さらに、どのような時に充実感を感じるかという問い合わせに対し、「北九州市」も「首都圏」も、「家族団らんの時」、「ゆったりと休養している時」、「趣味やスポーツに熱中している時」という回答が上位を占める。「全国」では「友人や知人と会合、雑談している時」もかなり多く上位を占めるが、「北九州市」、「首都圏」ではさほど多くない。また、「首都圏」では、「勉強や教養などに身を入れている時」が「北九州市」や「全国」をかなり上回る。

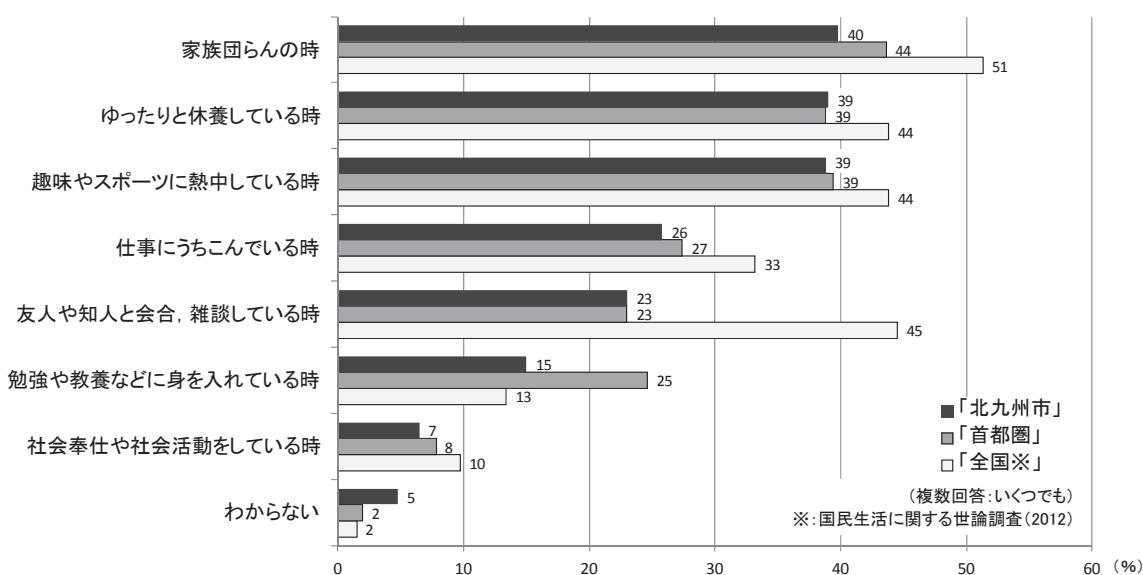


図2-11 生活の中で充実感を感じる時別の回答率

女性の方が男性よりも、また女性では「首都圏」方が「北九州市」よりも選択項目の数が多く、充実感を感じる時が多いことがわかる。「北九州市」の女性では、年齢が高いほど選択項目数が多く、60歳以上では「首都圏」を上回る。一方「首都圏」の女性は年齢による選択項目数にあまり差が無く、最も多いのは20歳代の女性である。

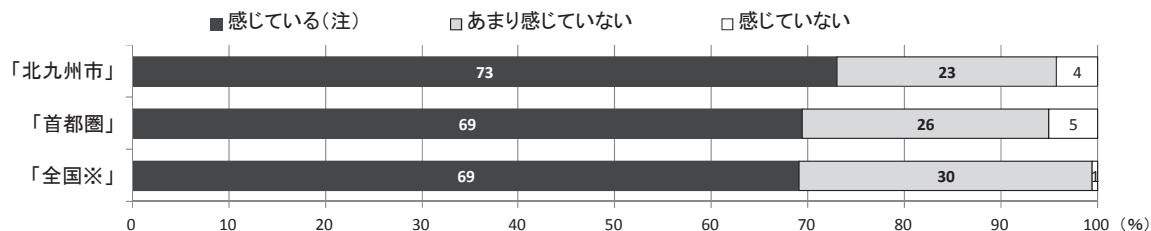
項目別にみても、ほとんどの項目で女性の方が回答率が高く、「北九州市」で男性の方が高いのは「仕事にうちこんでいる時」だけである。充足度を感じている人が多かった50歳代の男性で「仕事にうちこんでいる時」の回答率が高い。また、50歳代では男女とも、「家族団らんの時」の回答率が他の世代に比べて高い。

幸福度との関係をみていくと、「北九州市」も「首都圏」も、「家族団らんの時」に充実感を感じる人の幸福度が最も高い。また、「北九州市」では、「勉強や教養などに身を入れている時」に充実感を感じる人は「首都圏」より少ないが、充実感を感じている男性の幸福度は「首都圏」よりも高い。「趣味やスポーツに熱中している時」に充実感を感じる人の幸福度も、「北九州市」の男性の方がやや高い。

(5) 不安や悩みと幸福度

生活の中で悩みや不安を感じているかという問い合わせに答える、「感じている」と「ある程度感じている」を合わせた回答率は「北九州市」、「首都圏」、「全国（国民生活に関する世論調査）」のいずれも70%前後で、ほとんど差は無いが、わずかながら「北九州市」が高い。

「北九州市」では、男性の20歳代と50歳代、女性の30歳代、40歳代の回答率が高く、一方、60歳以上の男性では「あまり感じていない」が多い。



※:国民生活に関する世論調査(2012) (注)「北九州市」と「首都圏」は「感じている」と「ある程度感じている」の合計

図2-12 生活における悩みや不安の有無別の回答率

不安や悩みを「感じている」人の幸福度は低く、「感じていない」人との幸福度の差は「北九州市」の方が「首都圏」よりも大きい。「首都圏」では、30歳代の男性の場合、「感じている」人や「ある程度感じている」人の方が「あまり感じていない」人よりも幸福度が高く、悩みや不安があってもポジティブな姿勢がうかがわれる。

また、「北九州市」も「首都圏」も、不安や悩みを感じている人の幸福度は男性の方が女性よりも低い。女性は、ある程度感じていても、それが幸福度にはさほど大きく影響しない。男性の方が深刻な不安や悩みを抱えているとも、また、女性の方が不安や悩みへの耐性が強いとも考えられる。

さらに、どのような悩みや不安を感じているかという問い合わせ、「北九州市」では、「老後の生活設計」、「今後の収入や資産の見通し」及び「自分の健康」が、いずれも 40%前後で上位を占めている。「首都圏」に比べ、「老後の生活設計」、「今後の収入や資産の見通し」、「現在の収入や資産」といった収入、家計などに関する項目の回答率が高い。ただし、「全国（国民生活に関する世論調査）」に比べるとさほど高くない。

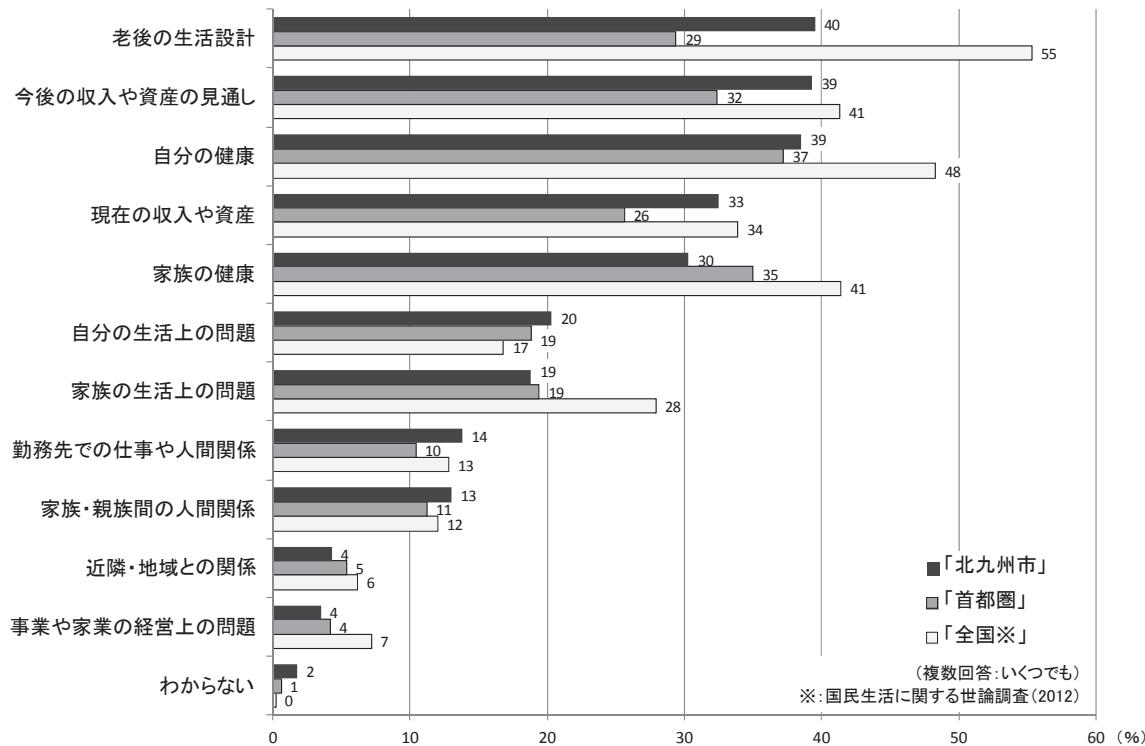


図 2-13 生活における悩みや不安の内容別の回答率

性別にみると、「北九州市」も「首都圏」も、女性の方が男性よりも選択項目数が多く、いくつもの悩みを抱える人は女性の方が多い。「北九州市」では、「家族の健康」、「自身の健康」、「老後の生活設計」の回答率は、女性の方がかなり高い。

さらに年齢別にみると、「北九州市」では、20 歳代は男女とも「自分の生活上の問題（進学、就職、結婚など）」の回答率が高く、特に 20 歳代男性では、「今後の収入や資産の見通し」や「現在の収入や資産」の回答率の高さが目立つ。また、30 歳代男性では「現在の収入や資産」、40 歳代女性では「今後の収入や資産の見通し」、50 歳代男性では「老後の生活設計」と「今後の収入や資産の見通し」、50 歳代女性では「自分の健康」、そして 60 歳以上の女性では「老後の生活設計」と「家族の健康」の回答率が高い。「首都圏」と比較して、収入や資産、生活上の問題について、不安や悩みを感じている若い世代が多い。

幸福度との関係をみていくと、「北九州市」、「首都圏」とともに、「自分の生活上の問題（進学、就職、結婚など）」や「近隣・地域との関係」に不安や悩みを感じる人の幸福度が低い。

「北九州市」では、「家族の生活上の問題（進学、就職、結婚など）」、「家族・親族間の人間関係」、「近隣・地域との関係」などの悩みや不安を感じている30歳代男性の幸福度の低さが目立つ。また、「家族の生活上の問題（進学、就職、結婚など）」に悩みや不安を感じている50歳代女性の幸福度もかなり低い。

（6）生活に関する項目の重要度・満足度と幸福感

これから的生活にとってどのようなことをどの程度重要と思うか、10項目についてたずねたところ、「きわめて重要」という回答が多いのは、「北九州市」、「首都圏」とともに「親子関係」と「子育て環境」であった。また、「北九州市」の回答率が「首都圏」より高い項目は、「就業環境」、「市民意見行政反映」、「要介護者対策等」及び「子育て環境」であった。「全国（国民生活に関する世論調査）」の方が「きわめて重要」という回答率が高い項目が多く、なかでも「防災・災害対策」について、「北九州市」と「全国」の意識の差が大きい。さらに、「きわめて重要」と「かなり重要」を合わせると、「北九州市」の回答率が「首都圏」より高いのは「就業環境」だけであり、「首都圏」に比べて生活上重視している項目は少ない。「全国」と比較しても、「北九州市」の回答率が上回るのは「就業環境」と「地域活動」だけである。

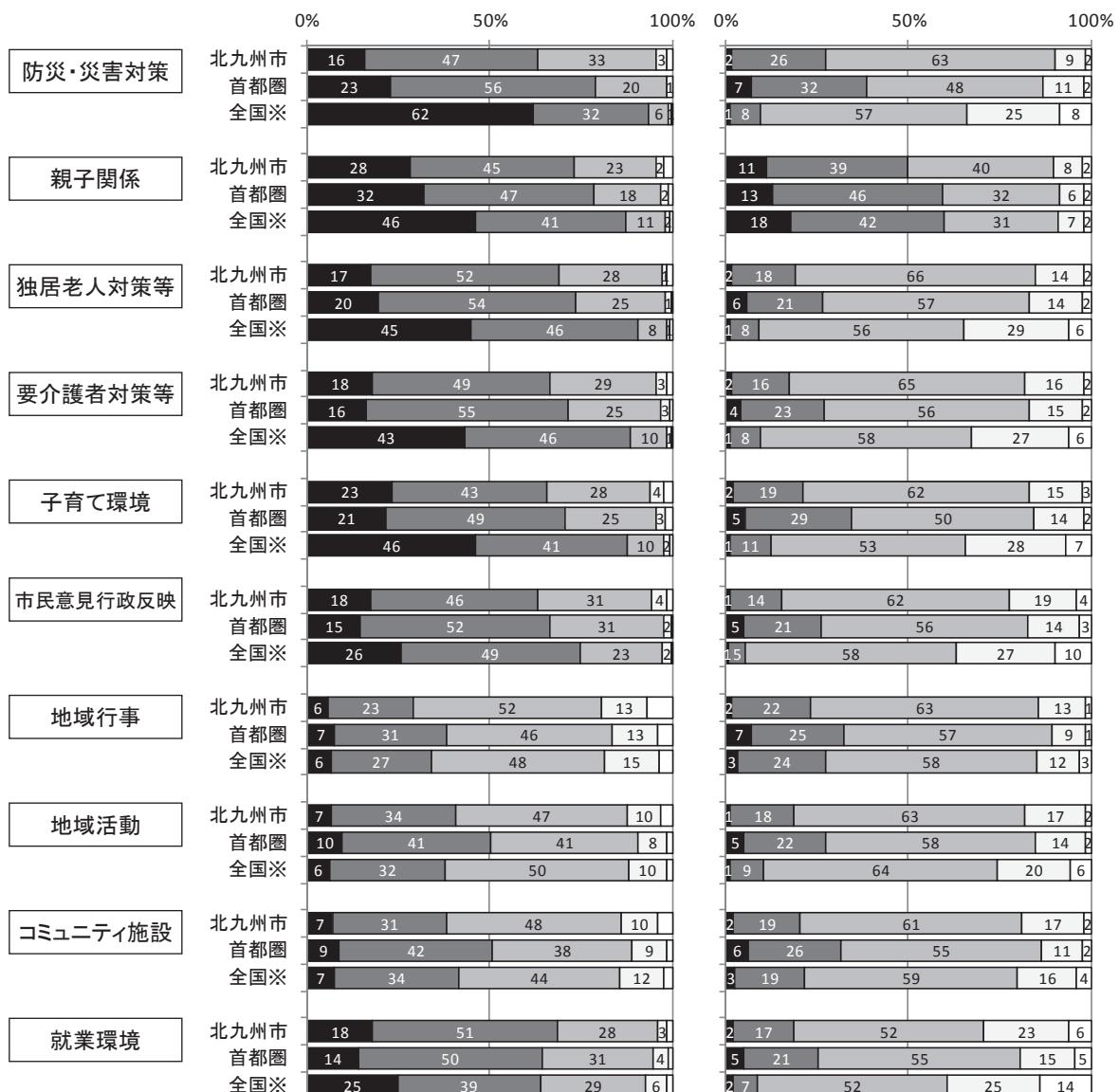
次に、同じ項目について、現在の満足度についてたずねたところ、まず、「十分満たされている」という回答は、どの項目も「首都圏」が「北九州市」を上回っている。「北九州市」、「首都圏」とともに、重要度と同じく「親子関係」が最も多い。「十分満たされている」と「かなり満たされている」を合わせてもほぼ同様の結果であり、総じて「首都圏」の方が満足度が高い。ただし、不満とする回答をみると、「ほとんど満たされたいない」は「北九州市」、「首都圏」とも同様にわずかであり、「あまり満たされていない」を合わせても大きな差はない。

重要度、満足度とともに、「北九州市」は「わからない」という回答が比較的多く、生活関連の諸事への関心がさほど高くないといった傾向がうかがわれる。

重要と思う項目と幸福度の関係をみると（表2-18・19）、「北九州市」では、幸福度が比較的高いのは「地域行事」や「地域活動」を重要と考える人であり、そのうち男性では、「首都圏」で「地域行事」や「住民活動」を重視する男性よりも福度は高い。一方、「首都圏」では、「子育て環境」や「親子関係」を重要と考える人の幸福度が高い。

また、満足度と幸福度の関係をみると（表2-20・21）、「北九州市」では、「親子関係」以外の全ての項目で、満たされている人の幸福度は「首都圏」を上回っている。そのなかで、「就業環境」や「コミュニティ施設」が満たされているという人の幸福度が比較的高い。

一方、満たされていない項目についてみると、「北九州市」では、満たされたないという人の幸福度は、全ての項目で「首都圏」を下回っており、満たされている人といない人の幸福度の差は大きい。なかでも、「親子関係」が満たされていないという人の満足度が低い。



■ きわめて重要
■ かなり重要
□どちらともいえない
□さほど重要ではない
□まったく重要ではない

■ 十分満たされている
■ かなり満たされている
□どちらともいえない
□あまり満たされていない
□ほとんど満たされていない

重要度
いまの、あるいは、これから的生活にとって、どのくらい重要なことか

満足度
現在の生活のなかで、どの程度満たされていると思うか

※:国民生活選好度調査(2012)

図 2-14 生活に関する項目別の重要度・満足度別の回答率

3. まとめと考察

以上の分析結果から明らかになった「北九州市」の幸福感の特徴や気付きなどなどについて、ここでは要点を述べる。

- 1) 幸福度にプラスの影響を与える要因や生活条件として、「女性」、「結婚」、「核家族」、「子ども2人」、「要介護者がいない」、「持ち家」、「管理職や専門的・技術的職業」、「高収入」、「家族の信頼・助け合い」、「自助意識」、「共助意識」、「生活充実感」、「不安や悩みがない」ことなどが確認できた。これらは既往研究などからも明らかであり、常識的なことがらでもある。ほぼ予想通りの結果が得られたことから、本調査の回答者に特異性や偏りはなく、信頼性のある回答が得られたと考える。
- 2) 「北九州市」の幸福度の平均値は「首都圏」や「全国」よりも低く、これは、マイナスの影響要因や生活条件によって、幸福感が阻害されている人が比較的多いためと考えられる。とりわけ「単身」、「未婚」、「無職」、「低収入」、「進路に関する悩み」、「親子関係への不満」などが幸福度の低下に作用している。いずれも、就業不安と結び付く要因であり、そのような不安を持つ人の相対的な多さが幸福度の差となって表れているといえる。幸福に関する研究は、経済的豊かさが必ずしも人々の幸せに結び付いていないという「幸福のパラドックス」を解明しようとする試みがその出発点であったが、やはり、幸福度に最も大きく左右するのは経済的要因と思われる。
- 3) ただし、家計の将来に楽観的な人の幸福度は「北九州市」も「首都圏」も同程度に高く、収入額の大小よりも「暮らし向き」が安定していることが、幸福の条件として重要と思われる。また、世帯収入が800万円を超えると「北九州市」の方が「首都圏」よりも幸福度は高く、幸福のコストパフォーマンス（幸せになるために必要な金額）は、北九州市の方が有利といえる。
- 4) また、生活に充足感や満足感を持っているという回答率は「首都圏」より低いが、そのような人の幸福度を比較すると「北九州市」の方が「首都圏」よりも高く、経済面だけでなく生活上の諸事に関してある程度“不足のない”生活が実現できれば、北九州市の方が暮らしやすく、幸福を実現しやすいと思われる。
- 5) しかし「北九州市」は「首都圏」に比較して幸福度の格差が大きい。既往研究などから、他者との比較意識が主観的幸福度の判断に大きく影響することが実証されている。生活条件の個人間、世代間の格差が、“恵まれていない”人の幸福感の低減につながっているのではないかと思われる。
- 6) いくつもの不安や悩みを感じている人は女性の方が多いが、幸福度は男性よりも女性の方が高い。また、「首都圏」では、不安や悩みの有無による幸福度の差はさほど大きくなない。不安や悩みが幸福度を低下させることは明らかだが、それらを受け止め、向き合う意識や姿勢も幸福度に大きく影響すると思われる。
- 7) 「北九州市」の女性は首都圏の女性に比べて自助意識が弱く、社会貢献に対しても消極性がみられる。「首都圏」では、女性の幸福度の高さが全体の幸福度を高めており、「北九州

市」においても、若い世代の女性の自立意識や社会意識が高まれば、幸福度も高まっていくと思われる。

8) 自身の幸福度を高めるために社会の助け合いが必要と感じている人の幸福度は低く、一方、社会貢献意識のある人の幸福度は高い。ソーシャル・キャピタルを豊かにし、その恩恵を受けやすくしていくことが、幸福度の格差解消につながると考えられる。

4. おわりに

どのような条件や環境が人々の幸福に関係しているのか、多くの場合、因果関係は両方向に作用するといわれている。例えば、仕事の満足度が人を幸福にする傾向と、もともと幸せな人はほど仕事から大きな喜びを得る傾向の両方の関係があることが研究で示されている。また、強い相関がみられても、互いに因果関係は無く、第三の要因が作用している可能性もある。例えば、収入の低い人が幸せでない理由は、低い収入それ自体にあるのではなく、報われない、評価されないという意識にあるといわれる。

このような、人の“心”的問題に立ち入る幸福研究を政策決定に利用することの妥当性、有用性には限界がある。しかし、人々が置かれている状態を改善する施策の考案に際して行う判断には役立つと思われる。様々な視点から幸福に関する研究が行われることが期待される。また行政主導ではなく市民主導で行われることが、より望ましいと考える。

参考文献

- 1) 幸福度に関する研究会(2011)「幸福度に関する研究会報告－幸福度指標試案－」, 内閣府
- 2) 荒川区自治総合研究所(2012)「荒川区民幸福度(GAH)に関する研究プロジェクト第二次中間報告書」, 公益財団法人荒川区自治総合研究所,
http://www.rilac.or.jp/report/Rilac_GAH_report_02.pdf
- 3) 幸福度に関する研究会(2011)「県民幸福度日本一を目指して～福岡県の取組について～(報告書)」, 福岡県
- 4) 東北活性化研究センター(2012)「幸福度の定量化に関する調査研究中間報告書」, 公益財団法人東北活性化研究センター, http://www.kasseiken.jp/pdf/news/120516_press.pdf
- 5) 内閣府(2010)「平成20年度版国民生活白書」,
<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h20/honpenzuhyo/honpen.html>
- 6) 内閣府(2012)「第1回生活の質に関する調査結果」,
<http://www5.cao.go.jp/keizai2/koufukudo/shiryou/6shiryou/6shiryou.html>
- 7) 内閣府(2012)「平成23年度国民生活選好度調査について」,
<http://www5.cao.go.jp/seikatsu/senkoudo/senkoudo.html>
- 8) 大竹文雄、白石小百合、筒井義郎(2010)「日本の幸福度-格差・労働・家族」, 日本評論社
- 9) デレク・ボック(2011)「幸福の研究」, 東洋経済新報社